

大津・南部の森づくり



平成 25 年 (2013 年) 9 月 5 日 発行

滋賀県西部・南部森林整備事務所 林業振興担当

TEL 077-527-0655 FAX 077-523-1831

e-mail dj35@pref.shiga.lg.jp<http://www.pref.shiga.jp/d/o-ringyo/>

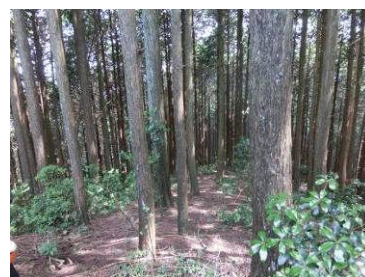
大津の森づくりを考える会が発足しました！

7月8日（月）に第1回大津の森林づくりを考える会が開催されました。この会では、これから2年間かけて大津地域の林業関係者があつまり、大津地域の森林づくりを進めていくための課題を出し合い、地域にふさわしい森林づくりや施業技術の検討を行っていきます。

第1回目は、森林づくりの大きなテーマである間伐材の搬出を進めていくために意見交換と現地検討を行いました。

意見交換の中では、大津地域の森林は、傾斜がきつく1所有者の所有する森林面積が小さいという特徴があり、道を付けながら車両系の機械を使って木材を搬出するには限界があるため、今後は架線系の搬出方法も使うことにより地形的に道を付けることが難しかった場所でも間伐材の搬出が可能になるのではという提案がされました。

考える会を通して、架線系の検討を行うことにより大津地域でよりいっそ間伐材の搬出が進んでいくことを期待しています。



研修の様子



間伐材搬出状況

タワーヤーダによる架線系間伐技術研修会を開催しました

架線系間伐技術の普及を図るため8月1日に大津市仰木町上仰木辻ヶ下生産森林組合所有林（滋賀南部森林組合施業）において県内関係者への現地研修会を開催しました。タワーヤーダは元柱を備え付けた自走式の集材機で、実際に稼働している事例は少なく珍しいことから、60名を超える参加者を集めました。

今回の現場で使用したタワーヤーダはイワフジ工業製（TY-U3B）で今回の現場では主索150m、搬器はラジキャリ、搬器の移動は集材機の動力を使用して搬出が行われていました。馴れば控え索に半日、主索張りに1日でできるとのことでした。

索張りや集材機等の操作についての技術は新しい物ではなく、既存の架線系技術を使い、様々な方式を選択しながら効率的な架線系技術を考える機会となったと思われます。今後もこのような技術導入の支援ができれば良いと考えます。

その木の
ポイント事業
ポイント実施中

木材利用ポイント事業をご存じですか？

地域材を使って家を建てる、リフォームする、地域材を使った木製品や木質パレットストーブを購入すると1ポイント1円相当で地域の農林水産品などと交換できる「木材利用ポイント事業」の申請受付が7月より始まっています。最高で30万ポイント（木製品は10万ポイント）がもらえる制度です。住宅購入やリフォームをお考えの方、木製品を購入されようとお考えの方はぜひ「木材利用ポイント事業」もご利用ください。

詳しくは 木材利用ポイント事務局 <http://mokuzai-points.jp> をごらんください。

琵琶湖森林づくりパートナー協定

「京都信用金庫 絆の森」 第1回森林保全活動が開催されました

平成25年4月に京都信用金庫と上仰木辻ヶ下生産森林組合の間で締結された琵琶湖森林づくりパートナー協定に基づく第1回目の森林保全活動が開催されました。

活動内容は、記念植樹（シダレウメ、ヤマザクラ、サトザクラ）と獣害対策ネットの設置、ヤマザクラとヒノキの苗木の植栽および皮むき間伐です。

参加された皆さんは、「自分達の手で植えた苗木がこれからどのように成長していくか、この場所に来るのが楽しみ」と話されていました。また、生産森林組合の皆さんと、琵琶湖を囲む森林・林業の現状などの意見交換もされていました。

これからも森林保全活動や、職員・家族の方々と地域住民との交流をお互い楽しみながら、息の長い活動になるよう当事務所からも応援していきたいと考えています。



中日本入会林野研究大会が大津市で開催されました

8月28日、29日に大津市内で第34回中日本入会林野研究大会が県内外より114名の参加者を迎えて開催されました。この大会は、入会林野及び入会林野整備後における経営・管理等に関する理論的実践的研究を進めることを目的として毎年中国東エリアで開催されています。

28日には、金勝生産森林組合の宮城組合長が「栗東市内における3生産森林組合の合併について」を発表されました。全国的にも生産森林組合の合併は事例がなく有意な発表となりました。

翌日29日には現地視察で比叡山を訪れ、坂本森林組合の磯村参事が「比叡山延暦寺の林業経営」について参加者に説明がされました。



林業技術情報 架線系？ 車両系？

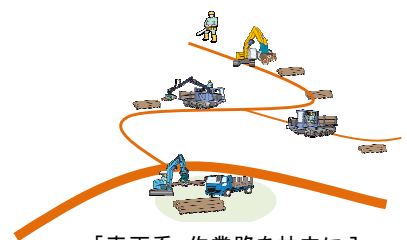
木材を森林から搬出する主な方法には、道をつけてグラップルやプロセッサなどのアームの届く範囲の木を集める方法と架線を張って木を集める方法の2種類があります。前者は、作業車両が直接伐木をしている場所まで行って林内から搬出を行うため「車両系」、後者は架線によって林内から搬出を行うため「架線系」と呼ばれています。

「車両系」の搬出システムは、高密度作業路とセットで考えられることが多く、伐木・枝払い・玉切り・造材作業が可能な高性能林業機械を組み入れることによって生産性が高くなると言われています。

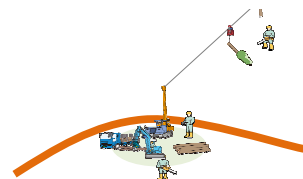
しかし、林内に作業路を開設できないような急傾斜地や道を入れることによって崩れやすい土質・地形の場所では採用することができません。

そのような場所では、「架線系」の搬出システムが活躍します。「架線系」のシステムでは、集材機と呼ばれるワイヤーロープを巻きとるドラムを備えた大型のウィンチを使って伐採した木を森林内から土場へ集めます。

どちらのシステムを用いるかは現場の状況によって異なってきますが、両方をうまく使うことにより効率の良い材の搬出が期待できます。



「車両系」作業路を林内に入れて材を直接収集し搬出する。比較的傾斜の緩い場所に適している。



「架線系」架線を張り林内から材を搬出する方法。